



枕崎駅舎と立神岩の看板で観光客を歓迎 ～「枕崎駅を想う会」が設置し、市に寄贈

■市内ホテル・飲食店主4人からなる「枕崎駅を想う会」（積山ユミ子代表）が、市民の寄付による観光看板を2基設置し、9月1日、市に寄贈しました。

2基は、2年前に解体された枕崎旧駅舎と枕崎のシンボルである立神岩の写真を使ったともに縦1.8m横3.6mの大きな看板。駅舎は無理でもせめて看板を設置して観光客を歓迎しようと多くの市民に呼びかけたところ、半年で約133万円が寄せられたということです。

同会は、今年3月に発足後、枕崎駅の通路に花のプランターを設置し栽培するなど、観光客に枕崎のよい印象をもってもらうと尽力されています。



病気の予防や救急医療について深く学んだ ～第30回市民健康教室

市民健康教室が9月13日、市民会館で開催され、健康相談や健康食の試食、救急シミュレーション、心肺蘇生法コンテストのほか、様々な催しが行われました。

また、健康指導員による演劇の上演や新町・東本町筋トレサロン講座生の高齢者の方々が、「ソーラン節」のリズムにのせて踊りを発表しました。更には、久木田整形外科病院院長・吉見洋士先生による「本当は怖い骨粗しょう症」と題しての講演も行われました。

【心肺蘇生法コンテスト結果】1位：別府小教員、2位：立神中教員、第3位：ザンパ小規模「愛」（12チーム参加）

「校歌は学校の宝物、大切にしてもらいたい」 ～玉川大学・千葉佑助教授がCDを贈呈

■毎年、市内小・中学校で合唱指導を行っている玉川大学の千葉佑助教授が9月9日、市長を表敬訪問しました。

千葉さんは坊津町にあった同大学系列の久志高校に勤務されたことがあり、そのときの教え子などに請われて10年前から毎年合唱指導を行っています。「男子生徒も大きな声で歌えるように」と校歌を混声四部合唱に編曲。今年2月には、市内中・高校6校と南さつま市の3校の校歌を編曲したCDと楽譜を、教育委員会を通じて各校に配布されました。

今年は、9月10日に別府中学校と枕崎小学校で合唱指導を行っています。



威勢のいいかけ声が会場に鳴り響く ～第63回さつま鯉産地入札即売会

さつま鯉産地入札即売会が9月12日、枕崎水産加工組合入札会場で開催され、市内の30社が出品し、全国から集まった58社の仲買人らが、コンペアーで運ばれてくるかつお節に次々と値を付けていきました。

最高級の仕上げ節のうち本節はキロ当たり平均1,842円（対前年比16円高）、竜節は1,813円（同99円高）。その他を合わせた売上総額は3億2,739万円（同1,132万円減）。

西村協水産加工組合長は、「原料のカツオの価格が高騰しており、もう少し値が付いてもらわないと」と語りました。



川辺チームが健闘 躍進賞を獲得 第62回県民体育大会川辺大会

「翔べ！南薩の海と緑と太陽に」のスローガンのもと9月20日、21日の2日間、県民体育大会川辺大会が開催されました。本市でも6競技8種目が実施され、各会場で熱戦が繰り広げられました。前回、総合10位だった川辺チームは今大会では5位となり、躍進賞を獲得しました。

■『出船駐車』を心がけよう
駐車場等から車をバックさせる際、確認不足により発生した物損事故が、枕崎地区で全事故の約4割を占めており、人身事故も今年8月末で6件発生しています。これを防ぐためにはバックで駐車を、前向きに進退することが効果的。それを推進するため、安全運転管理協議会では前向き駐車を「漁業の町・枕崎」にちなみ「出船駐車」と名付けステッカーを作成しました。このステッカーを全ての安全運転管理事業所に掲げてもらうため、この日、同協議会の茅野正己青年部長に手渡されました。



ルールとマナー 乗せて走ろう 秋の道 ～秋の全国交通安全運動を実施～